

事業番号	0	8	8
実施計画事業			
実施計画事業以外の事業	○		

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	講座開催事業					担当部	教育委員会事務局				
事業期間	平成8年度 ~ 令和2年度以降					担当課	味岡市民センター				
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	16	展開方向	1							
予算区分	一般会計	款	10 教育費	項	05	目	02	大	07	中	03

2. 実施状況

【平成30年度の実施状況】

- 市民自らが講座を企画し運営する市民企画講座を始め、親子講座や協働講座など、学び考える講座を開催しました。
- 市民企画講座開催  
市民企画講座は前期・後期に分けて前期5講座・後期4講座実施、1講座につき3~6回開催  
前期(心楽しい絵手紙、フォスターの名曲をやさしいコーラスで歌いましょう、川柳入門 初心者講座、バランスボールエクササイズAndセルフケア、ヘルシーおからこんにゃくクッキング)計23回  
後期(楽々フラワーアレンジメント、シニアで始める漢字の学習、はじめてのノルディックウォーキング、はじめての楽しいフラダンス)計23回  
※開催場所: 味岡市民センター  
※講師は外部から招いて実施した。  
※受講料は受講者数により変動するが、1回あたり150円~300円
- 高齢者学級(ゆうゆう学級) 1学級 20回開催・女性学級(つつじ学級) 1学級 18回開催  
※開催場所: 味岡市民センター  
※講師は外部から招いて、運営・企画(テーマ調査等)は市職員が行った。  
※受講料は、高齢者学級・女性学級はともに年間3,000円
- その他の講座  
サークル等との協働講座や親子講座等を開催  
協働講座(小牧市の花「つつじ」をつくろう、ダイエットに使えるアロマとハーブ)計5回  
親子講座(親子でつくろう! 恐竜・ひまわりの写真立て、親子で描こう! 似顔絵イラスト)計2回  
3センター合同講座(保護者のためのネットモラル塾)計1回  
※開催場所: 味岡市民センター  
※講師は外部から招いて、運営は市職員が行った。  
※受講料は、協働・合同講座は無料、親子講座は100円、150円

3. 総合診断

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1	
直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	242	46	118	94
			国・県支出金	千円	0	0	0	0
			その他	千円	451	503	524	472
	計(A)		千円	693	549	642	566	
	対前年比		%	-	79.2%	116.9%	88.2%	
	(当初)予算額		千円	1,194	866	873	995	951
人件費	正職員		人	0.4	0.4	0.4	0.4	
	正職員(平均人件費)		千円	2,994	2,994	2,994	2,994	
	その他職員		人	0	0	0	0	
	その他職員(時給×年間時間)		千円	0	0	0	0	
	計(B)		千円	2,994	2,994	2,994	2,994	
事業費合計(C=A+B)		千円	3,687	3,543	3,636	3,560		
指標	成果指標	受講者数(市民企画講座)		目標	200	200	200	200
		実績		213	206	241	160	
	成果指標	受講者数(高齢者・女性学級)		目標	100	100	100	100
		実績		90	100	100	100	
	活動指標	開催数(市民企画講座)		目標	40	40	40	40
		実績		45	44	48	46	
		開催数(高齢者・女性学級)		目標	40	40	40	38
		実績		40	40	40	38	
@事業費	受益者数(a) (各種講座の受講者数)		人	303	460	472	333	
	受益者あたり事業費 (b=C/a)		円	12,170	7,704	7,705	10,692	

診断結果	改善点は見られない	改善点が若干見られる	○	大いに改善すべき
	<p>○受講者数は目標値を下回ったが、終了時のアンケート結果においては、各講座・学級について、おおむね好評であった。また、市民講座を終了した受講生による自主活動グループも発足した。</p> <p>○アンケート結果等を参考に講座内容を検討し実施しているが、講座の内容により応募者数にばらつきがある。また、受講者の中には高齢者のリピーターが多くみられ、いかに若者や新規受講者を取り込むかが課題である。</p> <p>○幅広い年齢層が参加しやすいように、土曜・日曜日や平日夜間に講座の開催を行なった。また子育て世代が参加しやすいように託児を実施した。</p> <p>○平成27年10月より、市民自らが、講座を企画し運営する「市民企画講座」を実施した。講師の募集を行い、計画的な講座開催ができたため、目標値よりも多く、講座開催をすることができた。</p> <p>○平成28年度より、受益者負担の原則から、経費として講師料のみを受講者に負担を求めることとした。決算額にみる財源内訳として、一般財源の占める割合も縮小されている。また協働講座や親子講座、三セクター合同講座を積極的に開催することにより、指標としての受益者あたり事業費も減少させていく。</p>			

4. 総合評価

事業の方向性	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの			
	事務事業評価による額	千円	予算区分	節	節
評価結果	<p>○社会教育法・公民館としての意義を守り、生涯学習の拠点としての役割を発展させ、やがては住民の自主的な活動を育成し支援していくため、今後も事業を継続していく必要がある。</p> <p>○住民の主体的な活動を支援するための仕組みや組織の体制づくり、住民の活動の拠点となる環境の整備を実現するための講座等その内容を充実していく。</p> <p>○今後も、受講者数の増加を図るため、引き続き幅広い年齢層が参加しやすいように、土曜・日曜日や平日夜間に講座の開催を行なっていくとともに、子育て世代が参加しやすいように託児を実施していく。</p>				